

カワセミの子育て

神宮寺の中川原公園で繁殖を続けてきたカワセミ。

5月には雄物川の洪水により、巣穴を掘り始めたばかりの営巣地が水没するなど、大きな被害を受けただけでした。

しかし、カワセミは災害にもめげずに再び子育てに励み、無事に雛を孵したのです。さらに7月には、2回目の繁殖となる新たな巣穴掘りが確認され、子育てに励む様子に一安心したところです。



この場所が狩場のようです。3羽が集まりました。

中川原公園の沼は釣り公園でもあり、休日ともなると多くの太公望で賑わいます。この沼はカワセミにとっても、餌となる小魚が生息する大事な狩場です。

9月のある日、沼尻の一角で1羽のカワセミ（成鳥）を発見。沼に飛び込むと、生きのいい魚を捕らえてきました。

しかし自分で食べることもなく、魚をくわえたまま東側にあるカワセミ営巣地の方角へと飛び去ったのです。この行動は、子供に餌を運んでいったのではないかと推測しました。

翌日から観察を続けると、カワセミは同じ場所に毎日現れ、餌をくわえたまま飛び去って行くのです。そして約10日後、親鳥が子供（幼鳥）2羽を引き連れて狩場に現れたのです。



左の親鳥と比べると、幼鳥の体はまだ鮮やかさがありません。



新鮮な魚をくわえて、得意顔？。

親は頻繁に水中に飛び込んで魚を捕らえてきます。側にいる子供たちは一向に飛び込む気配はなく、ただじっと見ているだけ。親が魚をくわえて戻って来たところを、待っていましたとばかりに直ぐそばに詰め寄り、羽を小刻みに震わせ餌の催促です。親は子供に与えることなく、目の前で見せびらかしてから飲み込んでしまいました。



餌をもらうため、羽を震わせながら近づきます。



目の前でちらつかせながらも、与えることはありません。

呆然とする子供。

しかたなく、自分の力で餌を確保するしかありません。思い切って水中に飛び込んだが、失敗です。何回か挑戦し、やっと小魚をゲット。やればできるんだ。自信を得たのでしょうか。何時までも親に頼らず、生き延びるためのスパルタ教育でした。